

科目「現代の国語」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代の国語	単位数	2 単位	学年・学科	2 学年・全科
使用教科書	『新編現代の国語』(東京書籍)				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』『常用漢字ダブルクリア』(尚文出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。
学習の到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
取得可能な資格	特記なし。
授業を受ける心構え	授業には意欲的・積極的に取り組み、教科書やノート類の忘れ物をしないこと。また提出物は、必ず期限を守って出すこと

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5	ルリボシカミキリの青 (言葉と生活:話す・聞く)	・筆者の熱中したことを表現に即して捉え、理解する。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味や関心について考え、スピーチする。	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (5月中旬) 学期末考査 (6月下旬)
6 7	水の東西 (言葉と生活:読む)	・日本と西洋の対比の例から、文化や考え方の違いを理解する。 ・日本文化について、考えたことを発表する。		
9 10 11	スキマが育む都市の緑と 生命のつながり 鍋洗いの日々	・都市部のスキマに植物が生える理由について考え、生態系の果たす役割について知る。 ・働く人の思いを理解し、社会の中で生きる自分の将来について考える。	一斉授業 (座学)	平常考査 中間考査 (10月) 学期末考査 (11月下旬)
12	美しさの発見	・知識の世界を広げる「発見」と、心の世界を広げる「発見」を理解する		
1 2 3	真の自立とは (言葉と生活:書く)	・「できる」「できない」「自立」「独立」について筆者の考え方を理解し、現代における「大人になる」とはどういうことかを話し合う。	一斉授業 (座学)	平常考査 学年末考査 (2月)

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的な学び 【 】は評価方法
国語分野の基礎的・基本的な漢字 ・語句・語彙・文法・表現を理解し、生活全般に必要な知識を身に付けようとしている。 【定期考査・平常考査】	文章の意図を読み取り、要旨をまとめると共に自身の思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、「話す」「書く」といった表現する能力を身に付けている。 【定期考査・平常考査・レポート】	文章内容への関心を持ち、意欲的に「聞く」態度を持つ。国語を理解することへの向上を目指して、「話す」「書く」ことに主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度・提出物・発表】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率 (%)	その他
定期考査	24	18	0	42	学習態度の確認
平常考査	16	12	0	28	予習・復習の確認
提出物・授業態度	0	0	30	30	

シラバス・観点別評価基準

令和7年度

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
公民	公共	全学科	2	2	高等学校 公共(帝国書院)	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働きかせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。			
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解する。資料から必要な情報を調べまとめる技能を身につける。		現代社会の諸課題の解決に向けて、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
評価の方法・割合等	定期考查 平常考查 課題プリント 等		定期考查 平常考查 課題プリント 等	平常課題 夏課題 授業態度・発表 等
	4割		3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1部 第1章 1節 青年期と社会参画	4	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。	他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第1部 第2章 2節 宗教・思想・伝統社会と文化	5	宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し身に付けている。	人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容をわかりやすく表現している。	宗教や日本の伝統文化について積極的に調べている。
第1部 第3章 1節 倫理的な見方・考え方		選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。	思考実験などを通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。	様々な思想について積極的に学ぼうとしている。
第1部 第3章 第1節 社会の基本原理と憲法の考え方	6 7 9	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。	公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第1章 1節 法の意義と司法参加	10 11	法に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持していくことについて理解している。	自立した法的主体として解決が求められる具体的な主題について、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 第2章 1節 民主社会と政治参加	12	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに關わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれていくものであることをについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

	2節 國際政治の動向と平和の追求	1	よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。	自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国役割などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に關わろうとしている。
第2部 第3章	1節 市場経済のしくみ	2	市場のしくみや金融、財政のしくみについて理解している。	自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	市場経済の機能と限界、金融の働き財政及び租税の役割などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に關わろうとしている。
	2節 豊かな社会の実現		豊かな社会実現のためのしくみや制度について理解している。	豊かな社会の実現に向けて、様々な資料をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。	職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に關わろうとしている。
	3 節 國際経済の動向と格差の是正	3	国際経済の仕組みについて理解している。	国際経済の仕組みについて多面的・多角的に考察し、表現している。	経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む)などに關わる課題の解決を視野に、主体的に社会に關わろうとしている。

シラバス・観点別評価基準

令和7年度

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学	数学I	全学科	2	3	最新 数学I (数研出版)	パラレルノート数学I (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式や2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	図形と計量、データの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法・割合等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	定期考査 平常考査 課題プリント 等	平常課題 夏冬課題 ポートフォリオ 授業態度・発表 等
	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第3章 第2節 2次方程式と2次不等式	4	○因数分解や解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。 ○2次方程式は、因数分解による解法が難しい場合に、解の公式を「利用すれば、必ず解を求められることを理解している。 ○2次方程式の解の個数が判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号によって決まるこを理解している。 ○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を、判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号から求めることができる。	○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。	○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。
		○2次関数のグラフとx軸との共有点のx座標を求めることができる。 ○2次関数のグラフと、2次方程式の関係を理解している。 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D = b^2 - 4ac$ の値から考察できる。 ○2次関数のグラフとx軸の位置関係の条件を $D = b^2 - 4ac$ の符号から求めることができる。	○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D = b^2 - 4ac$ の値から考察できる。	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。
	5	○2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解く方法を理解し、2次不等式を解くことができる。	○2次関数のグラフ、2次方程式、2次不等式を関連づけて考えることができる。	○1次関数のグラフと1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。
				○身近な問題を、2次不等式を用いて解決しようとする。
第4章 第1節 三角比	6	○三角比は、直角三角形の辺の比であることを理解している。 ○直角三角形において $\sin A, \cos A, \tan A$ の値を求めることができる。 ○三角比の表を用いて、三角比の値や角を調べることができる。	○三角比の値が角の大きさによって定まるこを理解している。	
		○三角比を使って、距離や高さを求めるこができる。	○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとして、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。	○直接測ることのできない距離などの求め方を考えようとして、具体的な事象を三角比の問題として見ることができる。
	3.	○三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めるこができる。 ○ $90^\circ - A$ の三角比の公式を利用できる。	○ $\sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ を三平方の定理として、とらえるこができる。	○三角比の相互関係を調べようとする。

	4. 三角比の拡張	7	○鈍角の三角比の値を求めることができる。 ○鈍角も含めて三角比の相互関係を用いて、三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。 ○ $180^\circ - \theta$ の公式を利用できる。	○座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。	○三角比の相互関係が鈍角のときも成り立つことを調べようとする。
	5. 三角比が与えられたときの角、研究		○座標を用いて、 θ の三角比の値から θ を求めることができる。	○直線の傾きと正接の関係を考察することができる。	○ θ の三角比が与えられたときに θ を求める際、図を積極的に利用しようとする。
	節末問題				
第2節 正弦定理・余弦定理	6. 正弦定理	9	○正弦定理における $A=B=C=D$ の関係式を適切に処理できる。 ○正弦定理を用いて三角形の外接円の半径や辺の長さを求めることができる。		○正弦定理の図形的意味を考察する。
	7. 余弦定理		○余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。		○余弦定理の図形的意味を考察する。
	8. 三角形の面積	10	○2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。 ○3辺の長さが与えられた三角形の面積を求めることができる。	○三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。	
	9. 図形の計量		○四角形を対角線で2つの三角形に分割して、面積を求めることができる。 ○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。	○正弦定理や余弦定理を用いて、測量問題が解決できる。	○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。
	節末問題、発展		○ヘロンの公式を使って、三角形の面積を求めることができる。		
	章末問題				
	1. データの整理	11	○度数分布表について理解し、度数分布表からデータの特徴を読み取ることができる。 ○データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。		○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。
第5章 データの分析	2. データの代表値	12	○平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。	○データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切ではないことを理解している。	○身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。
	3. データの散らばり		○範囲の定義やその意味を理解し、それを求められる。 ○四分位数の定義を理解し、それを求めることができる。 ○四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求めることができる。 ○データの分布と箱ひげ図の関係について理解している。 ○箱ひげ図をかくことができる。 ○データの中のある値が外れ値であるかどうかを判断できる。 ○偏差、分散、標準偏差の定義とその意味を理解している。 ○分散、標準偏差に関する公式を用いて、これらを求めることができる。	○範囲を求め、データの散らばり具合を比較することができる。 ○四分位範囲を求め、データの散らばり具合を比較することができる。 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ○外れ値を見いだす意義を理解している。 ○標準偏差によって、データの平均値からの散らばり具合を比較することができる。	○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。
	4. データの相関、コラム	1	○散布図、相関表を作成することができる。	○散布図、相関表を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。	○相関と因果関係について、興味・関心をもつ。
	5. 相関係数		○相関係数の定義とその意味を理解し、定義に従ってそれを求めることができる。	○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。	○相関関係の大きさを数値化する方法を考察しようとする。
	6. 分割表、研究	2	○分割表の意味を理解し、数値の割合を計算して新たな表を作成することができる。		○問題の解決や改善を図るために、現状のデータの分布を望ましいと考える方向に変えるための条件や改善策を、コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして探ろうとする。
	7. 仮説検定の考え方		○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。	○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。

対象教科・科目	単位数	学年・学級
生物基礎	2単位	2学年 農業科・園芸科・生活文化科
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編生物基礎」(生基 702), ニューサポート新編生物基礎	

1 学習の目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習活動	評価の方法	知4割	思3割	主3割
					中間 考査	一 学期	
4	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性			中間 考査			
	1節 生物の多様性 (2h)	・地球上で生活する生物の多様性は、進化の結果生じたものであることを理解する。			○	○	○
	2節 生物の共通性 (4h)	・生物のもつ基本的な特徴を理解する。			○	○	○
	3節 細胞の特徴 (2h)	・真核細胞の構造について理解する。			○		○
6	1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー			一 学期 末 考 査			
	1節 生体と ATP (2h)	・ATP の構造やリン酸どうしの結合にエネルギーが蓄えられていることを理解する。			○		
	2節 酶素のはたらき (2h)	・酵素の基本的な特徴を理解する。			○	○	○
	3節 呼吸と光合成 (2h)	・呼吸におけるグルコースの分解反応について理解する。 ・光合成は、ATP の合成から始まることを理解する。			○	○	○
7	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報と DNA			中間 考 査			
	1節 生物と遺伝子 (2h)	・遺伝情報にはさまざまな形質に対応する情報が含まれ、父母の双方からの形質が別々に伝わることで、同じ生物の間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。			○	○	○
	2節 DNA の構造 (3h)	・DNA の分子モデルの写真から、DNA の構造にある規則性や特徴に気づかせる。			○	○	○
	3節 DNA の複製と分配 (2h)	・塩基の相補性により DNA が正確に複製されることを理解する。			○		○
9	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質の合成			二 学期 中間 考 査			
	1節 タンパク質 (1h)	・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。			○		
	2節 タンパク質と遺伝情報 (3h)	・遺伝情報は、ATGC の 4 つの文字のみで表現されていることから、4 文字の組み合わせによって膨大な情報を表現できることに気づく。			○	○	○
	3節 細胞の分化と遺伝子 (1h)	・細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで、多種の細胞に分化することを理解する。			○		○
10	3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ			一 学期 末 考 査			
	1節 体内環境 (2h)	・体内環境と体液の関係について理解する。			○		
	2節 神経系による情報伝達 (3h)	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。			○	○	○
	3節 内分泌系による情報伝達 (1h)	・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について理解する。			○		○
11	4節 血糖濃度の調節 (2h)	・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。		一 学期 末 考 査	○	○	○
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき						
	1節 免疫のしくみ (2h)	・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防御していることを理解する。			○	○	
	2節 免疫の応用 (2h)	・体内的抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。予防接種のしくみを理解する。			○	○	○
12	3節 免疫とさまざまな疾患 (2h)	・アレルギーの定義や症状について理解する。		二 学期 末 考 査	○		○
	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移						
	1節 身のまわりの植生 (2h)	・さまざまな環境に多様な植物が生育していることに気づく。			○	○	○
	2説 植生の遷移 (3h)	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壤や光環境について見いだして理解する。			○	○	○
3	2節 遷移とバイオーム (3h)	・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。		学年 末 考 査	○	○	○
	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性						
	1節 生態系における生物の多様性 (2h)	・食物網について理解する。			○	○	○
	2節 生態系における生物間の関係 (2h)	・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。			○	○	
3	3節 生態系と人為的擾乱 (2h)	・生活排水の河川への流入の例から、人為的擾乱による生態系への影響を見いだして理解する。		学年 末 考 査	○	○	○
	4節 生態系の保全 (3h)	・環境アセスメントの具体的な事例を基に、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。			○		○

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	2 単位	学年・学科	全学科 2 学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ 2024				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をすることなく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	体つくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める。	一斉・グループ	ラジオ体操
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ。	個別	水泳
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ。		球技
7		○仲間との協力とともに技能を高める。		補習（水泳）
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ	球技
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。	個別	陸上競技
11	陸上競技（長距離走）	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		補習（長距離）
12	球技選択			ロードレース
1	体つくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ	球技
2	球技選択		個別	陸上競技
3	体育理論	○活動計画を立て、実践する。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定・理解度チェック、観察】	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【観察、発表、ワークシート、レポート】	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保している。 【観察・授業態度、出席状況】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	比率(%)	その他
授業観察・テスト	40	10	10	60	
提出物等		10		10	
授業態度・発表		10	10	20	
出席状況			10	10	
				100%	

科目「保健」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	保健	単位数	1 単位	学年・学科	全学科 2 学年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）				
副教材等	現代高等保健ノート（大修館）				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	健康に関する興味関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用して思考力、判断力を育成する。
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働きかせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力が身につく。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	主体的に授業に参加し、定期考査を受ける。提出物を必ず提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	健康の考え方	○健康の考え方と成り立ち、疾病構造の変化	一斉授業	平常考査
5	生活習慣病などの予防と回復	○生活習慣病とその予防、がんの予防 ○食事、運動等と健康	グループワーク	学期末考査
6				
7				
9	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	○喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	一斉授業	平常考査
10		○精神疾患の特徴、予防	グループワーク	学期末考査
11	精神疾患の予防と回復	○健康に関する意思決定、行動選択		
12	現代の感染症とその予防	○現代感染症と予防		
1	安全な社会作り	○事故の現状と発生要因 ○交通安全	一斉授業	平常考査
2	応急手当	○応急手当の意義とその基本	グループワーク	学年末考査
3		○日常的な応急手当○心肺蘇生法とその原理	実習	

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習する態度
	生涯を通じると健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について課題の解決を目指して総合的に考え、判断しそれらをあらわしている。	生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価の方法割合等	・定期考査・平常考査 ・提出物・発表	・定期考査 ・提出物 ・授業状況 ・平常考査 ・発表	・定期考査 ・授業態度 ・出席状況 ・平常考査
	4割	3割	3割

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	2単位	学科・学年	全学科 2年
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ(数研出版)				
副教材等	COMET基本文法定着ドリル①②(数研出版)、チャンクで英単語Basic、ドリルノート①②(三省堂)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	積み重ねの教科であり、中学校の基礎から高校の基礎につなぐ。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得できる資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをしっかりと仕上げ、提出する。

2. 計画 観点別評価：【主体的に学習に取り組む態度】(=【主】)、【知識・技能】、【思考・判断・表現】

月	学習内容	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・ 考査
4 5	Lesson 1 Places Worth Visiting	・ダイキとエラの旅先での体験について本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・S+V+O+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・行ってみたい場所を発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】	・関連する語句 ・want+人+to do ・行ってみたい場所について英語で書く・発表する	平常考査 中間考査
6 7	Lesson 2 Iwago Mitsuaki パフォーマンステスト	・岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・疑問詞+to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・学習した語句を使って自分の意見を話し、書くことができる。【思・判・表】	・関連する語句 ・疑問詞+to 不定詞 ・お気に入りの写真について英語で自分の意見を書いたり、話したりする。	平常考査 期末考査
9 10	Lesson 3 The Haka パフォーマンステスト	・ハカについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・分詞を用いて、自分の周りにいる人について伝え合う技能を身につける。【知識・技能】 ・興味のある世界の文化について英語でまとめ、発表できる。【思・判・表】	・関連する語句 ・分詞 ・興味のある世界の文化について書いたり、話したりする。	平常考査 中間考査
11 12	Lesson 4 Digital Detox パフォーマンステスト	・デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・if 節・疑問詞節の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、if 節や疑問詞節を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりできる。【思・判・表】	・関連する語句 ・if 節・疑問詞節 ・デジタルデトックスについて意見を書いたり、発表したりする。	平常考査 期末考査
1 2 3	Lesson 5 Goal Setting パフォーマンステスト Lesson 6 The High School Hair Salon	・目標設定において重要なことについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・取り上げられた語句の意味を理解し、正しく発音する技能を身につける。【知識・技能】 ・seem + to 不定詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・自分の目標について発表するために、情報や考えを整理して書いている。【思・判・表】 ・高校生美容室の活動内容や部員の思いについて本文から概要や要点を把握しようとする。【主】 ・助動詞+have+過去分詞の用法を理解している。【知識・技能】 ・就きたい職業について情報や考えを整理して書いている。	・seem + to 不定詞 ・自分が立てた目標についてやり取りする。 ・助動詞+have+過去分詞 ・就きたい職業について発表する。	平常考査 学年末考査

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【】は評価方法	思考・判断・表現 【】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【】は評価方法
・基本的な単語や語句の意味を理解し正しく発音できる。 ・例文を暗記でき、簡単な内容の英文が理解できる。 【授業中の態度】 【定期考査6割・平常考査4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できる。 【授業中の態度】 【定期考査6割・平常考査4割】 【パフォーマンステスト】 【提出物】	・授業中に積極的に質問したり、答えるしようとしている。 ・他の生徒の発表を聞いたり、発表したりしようとしている。 ・提出物の期限を守って提出している。 【授業中の態度】 【出席状況】 【パフォーマンステスト】 【提出物】
4割	3割	3割

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	総合実習	生活文化科	2	2	なし	農業と環境 実教出版

1 科目の目標と評価の観点

目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
	知識・技能（術）	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けることができたか。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
評価の方法・割合等	定期考查 平常考查（技能試験等）	定期考查 授業記録 平常考查（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	学習（実習）状況 等
	3割	3割	4割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
栽培と飼育、環境等に関する基礎的な実習	4 7 11 1	栽培と飼育、環境等に関する基礎的な知識を理解している。 栽培と飼育、環境等に関する総合的な技術を身に付けています。	栽培と飼育、環境等の基礎的な知識と技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	栽培と飼育、環境等に関する基礎的な知識と技術について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
農業の各分野に関する総合的な実習	5 6	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法について理解している。 農業の各分野に関する総合的な技術を身に付けています。	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	農業の各分野に関する総合的な知識と技術や経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
農業の産業現場等における総合的な実習	7 9 2	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法について理解している。 農業の産業現場等における総合的な技術を身に付けています。	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	農業の産業現場等における総合的な知識と技術や経営と管理の手法について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
学校農業クラブ活動	5 10 12	学校農業クラブの諸活動について理解している。 学校農業クラブの諸活動について関連する技術を身に付けています。	学校農業クラブの諸活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	学校農業クラブの諸活動について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

科目「農業と情報」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科	農業と情報	単位数	2単位	学科・学年	生活文化科・2学年
使用教科書	『農業と情報』 実教出版 発行				
参考資料	日本情報処理検定協会テキスト				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習の到達目標	(1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
取得可能な資格	表計算検定、プレゼンテーション作成検定
授業を受ける心構え	興味・関心・意欲を持つ。集中力を持って臨む。

2. 学習指導計画

月	学習内容（目次の項目）	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	第4章スマート農業への展望 ・スマート農業の目指す将来 ・人工知能 ・表計算ソフトの活用②	・情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）などの先端技術を活用し、省力化や精密化、大規模生産や品質の向上などを進めた次世代農業について理解する。 ・エクセルを使用して数値やデータを表に入力し、計算や分析ができる 検定試験にチャレンジする。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考查 平常考查
9 10 11 12	第5章農業情報の分析と活用 ・情報の収集と分析 ・プレゼンテーションソフトの活用 ・ワープロソフトの活用	・各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術を習得する。 ・パワーポイントの基礎を習得し、スライドを作成後プレゼンテーションができるようになる 検定試験にチャレンジする。 ・ワードを使用して現場実習のまとめを作成し提出する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	期末考查 平常考查
1 2 3	第6章農業学習と情報活用 ・発表と情報発信 ・ソフトウェアの活用のまとめ ・プログラムの設計	・現場実習の発表に向けたスライドを作成し、プレゼンテーションを実施する。 ・日検のテキストと学習ソフトを使用してプログラミングの基礎を習得する。	・一斉授業 ・演習 ・グループ実習	学年末考查 平常考查

3. 評価の観点と方法

評価の観点	知識・技術（4割） 【 】は評価方法	思考・判断・表現（3割） 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度（3割）【 】は評価方法
	農業と情報について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けています。	農業と情報に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けています。	農業と情報について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組もうとしています。
評価の方法	【定期考查】 【平常考查】 確認テスト 実習 等	【定期考查】 【平常考查】 授業態度・発表 提出物	【平常考查】 レポート 自己・相互評価 授業態度・発表 提出物

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
農業	生物活用	生活文化科	2	2	生物活用（実教出版）	なし

1 科目の目標と評価の観点

目標	農業の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 生物活用について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
	知識・技能（術）	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生物活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。	生物活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けることができたか。	生物活用について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができたか。
	定期考查 平常考查（技能試験等）	定期考查 授業記録 平常考查（技能試験等） 課題レポート 学習（実習）状況 等	学習（実習）状況 等
評価の方法・割合等	4割	3割	3割

2 学習計画と観点別評価規準 ※履修月は目安

学習内容	月	観点別評価規準等		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1章 生物活用の意義と役割 1 生物活用の意義と役割	4	緑のある環境・園芸や社会動物の特性と効用について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	緑のある環境・園芸や社会動物の特性と効用を科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	緑のある環境・園芸や社会動物の特性と効用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	5			
	6			
第2章 園芸作物の栽培と活用 1 植物・園芸と人間生活	6	園芸作物の栽培と活用について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	園芸作物の栽培と活用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	園芸作物の栽培と活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	7			
第2章 園芸作物の栽培と活用 2 草花の栽培と活用	9	園芸作物の栽培と活用について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	園芸作物の栽培と活用に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	園芸作物の栽培と活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	10			
第4章 生物を活用した療法 1 生物を活用した療法	11	生物を活用した療法の特徴及びそれらの活用状況を理解することができる。	専門家が行う生物を活用した療法と生徒自らが行える交流活動の違いについて理解することができる。	専門的知識・技術を有する人とともに、疾患や障害とその支援に関して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	12			
2 園芸療法	1	生物を活用した療法の特徴及びそれらの活用状況を理解することができる。	専門家が行う生物を活用した療法と生徒自らが行える交流活動の違いについて理解することができる。	専門的知識・技術を有する人とともに、疾患や障害とその支援に関して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	2			
	3			

科目「ファッション造形基礎」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	ファッション造形基礎	単位数	4 単位	学年・学科	2学年・生活文化科
使用教科書	ファッション造形基礎(実教出版)				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	被服製作に関する知識や技術を身につけ、衣生活の能力を高める。
学習の到達目標	衣服の縫製に関する知識と技術を身につける。
取得可能な資格	全国高等学校家庭科被服製作技術検定準1級(和裁・洋裁)
授業を受ける心構え	専門学科として、衣生活における知識や技術の定着を図る。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	4章 和服の製作	・和服構成を理解する。	・一斉授業	中間考查
5	1章 衣服の構成	・和服の縫い方・始末の仕方を身につける。	・作品製作	平常考查
6	検定2級 和服	〈じんべいの製作〉		学期末考查
7				
9	3章 洋服の製作	・洋服の構成を理解する。	・一斉授業	中間考查
10		・洋服の縫い方・始末の仕方を身につける。	・作品製作	平常考查
11	3章3節 着装	〈シャツの製作〉 〈ファッションショー〉		学期末考查
12		・型紙の使い方を理解する。		
1	2章 衣服の素材	・衣服の素材の種類を理解させる。	・一斉授業	平常考查
2		・適した衣服材料を選択できるようになる。	・作品製作	学年末考查
3		・刺繍ができるようになる。		

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
実習を通じて、基本的な技術を身につけて、正確に実践できる。また、課題に対して確実な知識、理論を考察し活用できる。学習で学んだ知識や技能を日常生活に活かす力を身に付けていく。 【定期考查、実技テスト、作品、平常考查、課題プリント等】	縫製の基礎・基本を理解し、技術の仕組みについて理解しようと努めている。平面構成と立体構成について構成の違いを考え、和服と洋服の特徴を考えることができる。課題については論理的に考え、表現するなどして主体的に解決する力を身に付けていく。 【定期考查、レポート、平常考查、作品、課題プリント等】	縫製の技術や知識の習得に積極的に取り組む。自分の作業のみならず、様々な人と協働し、作業を行うことができる。作業内容は指導を振り返って改善するとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 【レポート、課題プリント、授業態度等】
4割	3割	3割

科目「フードデザイン」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	家庭科	単位数	4 単位	学年・学科	2学年・生活文化科
使用教科書	フードデザイン (実教出版)				
副教材等	なし				

1. 学習を始めるにあたって

科目的特徴	食生活を総合的にデザインする能力と態度を育てる。
学習の到達目標	家庭や地域において食分野推進に寄与する能力と態度を養う。
取得可能な資格	全国高等学校家庭科食物調理技術検定3級
授業を受ける心構え	食生活を栄養的役割や文化的な意義、精神的な満足と合わせて学習する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4	1章 食生活と健康	・食事の意義と役割を理解する。	・一斉授業	中間考查
5	2章 栄養素のはたらきと食事計画	・調理実習「日常食」	・調理実習	食物検定
6		・栄養素のはたらきを理解する。		学期末考查
7	食物調理技術検定3級	・調理実習「3級指定調理」		レポート提出
9	3章 食品の特徴・表示・安全	・食品の栄養素やおいしさを生かす調理法を理解する。	・一斉授業	中間考查
10		・食品表示を理解し安全な食品選びに生かす。	・調理実習	学期末考查
11	4章 調理の基本	・調理手順を理解し実習に取り組むことができる。		平常考查
12		・調理実習「日常食」		レポート提出
1	5章 料理様式とテーブルコーディネート	・料理様式や食文化を理解する。	・一斉授業	平常考查
2		・調理実習「行事食」	・調理実習	レポート提出
3		・調理実習「饗応食」		学年末考查

3. 評価の観点と方法

知識・技能 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	主体的に学習に取り組む態度 【 】は評価方法
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 食品や栄養、調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実験実習をとおして、その技術を適切に活用している。 【定期考查、実技テスト、平常考查、課題プリント等】	現代の食生活に関する問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し表現する創造的能力を身に付けている。 食品の調理性や栄養的特徴を理解し、適切な判断をして実習に取り組んでいる。 【定期考查、レポート、課題プリント等】	自分自身の食生活に関する課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【レポート、課題プリント、授業態度等】
4割	3割	3割